

# 沼津の未来へ

## 100周年記念スペシャルメッセージ



沼津にゆかりのある、様々な分野で活躍する皆さんに、沼津市の魅力や応援メッセージを綴っていただきました。

### MESSAGE

沼津市出身、映画監督、脚本家  
**原田 真人** さん

1949年生まれ。  
黒澤明、ハワード・ホークスといった巨匠を師と仰ぐ。作品は常に世界を見据え、2021年には10代から愛読していた司馬遼太郎の小説を原作とし、監督・脚本を務めた「勝えよ剣」が公開された。この作品と「関ヶ原」、「日本のいちばん長い日」は日本史における三大変革期（1600年、1868年、1945年）の映画化でもある。



私が幼かった頃の沼津を思うとき、先ず浮かぶのは映画館と洋食屋だ。1950年代、沼津には映画館が12、3館あった。5歳の時、大手町200番地の沼津セントラル劇場で見た「山河遙かなり」は私の記憶に残る最古の映画であり、戦災のベルリンの通りで浮浪児を捕まえパンをめぐるモンゴメリー・クリフトのGIは、私のスクリーン・ヒーローの出発点となった。洋食屋



では、桃中軒、沼津軒、沼津グリルが我が家の外食御三家で、私の味覚の原点は間違いなく沼津グリルのカレー・ライスだった。中央亭や北口亭の餃子に夢中になるのはずっと後のことだ。

私は勉強熱心な子供ではなかったが、恩師と呼べる人は数多くいる。聖マリア幼稚園のシスターも一、二中、東高の教師たちも、触れ合ったすべての教育者が個性豊かな爽やかさで私を見守り、言葉をかけてくれた。あの時代の教育者の清々しさはどこへ行ってしまったのだろう。「ゆとり教育」という号令には、私は否定的な見解を持つものだが、1950年代の教師には、道を切り開くものゆとりがあった。一人の教師の姿に象徴させるならば、彼の家の庭からは千本松原が見えた。松の梢を弦にして奏でる風と、その教師の爽やかな知性はリンクしていた。松籟声を讀んで、こまやかなりの景観だ。

昨今、私が思う沼津は、千本松原、狩野川、香貴山という魂の3点セットに集約されている。日本のそここしがいびつに変形していく中で、千本松は、戦で焼き払われた松原を増善上人が甦らせた16世紀の気概を今に伝えているし、狩野川の流れも香貴山の高さも数世紀の風雅

を失っていない。私は、実に貴重な若い時間をこれらの空間で過ごした。その体験から、同郷の先輩である井上靖先生の「しろばんば」に描かれた大正時代の伊豆や三島や沼津に思いを馳せることもできた。無論、「わが母の記」でも井上先生の原作以上に沼津を描き、沼津の各所で撮影もした。「ヘルドッグス」のオープニング・エピソードは元々フィリピンがタイで撮影するつもりだったが、コロナ禍でそれが無理になって、最終的に選んだロケ地は、わが沼津の、私が通った東高から車で5分の愛鷹の山中だった。沼津フィルムコミッションが見つけたそのロケ地は、私にとっては、古き佳き未知の沼津だった。

映画監督が生まれ育った環境を傑作に昇華させる詩心あふれる試みが、ここ数年増えてきた。今年はステイヴン・スピルバーグの「フェイブルマンズ」がある。去年はケネス・ブラナーの「ペルファスト」があった。そして、その前には、アルフォンソ・キュアロン「ローマ」が燦然と輝く。

私は、市制100年を超えた沼津で、私が育った1950年代を大々的に再現する映画を作りたいと願っている。

私はここ沼津市で生まれ、高校卒業までの18年間を過ごしました。小学生の頃は父と一緒に犬の散歩がてら我入道海岸で水平線に沈んでいく真っ赤に膨らんだ太陽を眺めるのが好きでした。冬の寒い時期、特に海が穏やかで雲がない時には、太陽が海面に映り2つの太陽が重なる神秘的な瞬間に立ち会うこともたまにありました。大人になって知りましたが「ダルマタ日」というそうです。太陽が水平線に触れ、姿が見えなくなるまでのほんの数分間、日々の喧騒の中にもいつも穏やかな気持ちになりました。44歳になった今でも人生の節目に沼津の海に立ち寄り、日の入りを眺めては心身をリセットし、新たなチャレンジに挑んでいます。

この2、30年の沼津は、なかなか駅周辺高架化是非の議論が進まず、沼津駅南側に立ち並んでいたデパートもいつの間にかなくなり、アーケード名店街も寂しくなり、人口も1990年から13%ほど減ってしまいました。そんな変わりゆく故郷を遠方から眺めつつ、いつかは沼津のために何かしたいと思いつつも、私は何もできずにいました。そんな中、様々な大使のお話をいただき、広報ぬまづ紙面での市長

との対談、沼津市民大学での講演など、沼津市と再び接する機会が増えました。実家に帰る以外に沼津市を訪れる機会も増え、同級生や知り合いが地元で活躍していることを知り、とても嬉しくなりました。さらには、SNSなどを



通じて、沼津の市民が積極的に地元の情報発信している様子を知ることができ、市民と市が協力し合いながら、沼津を盛り上げようとしている様子が伝わってきました。

最近私は、沼津市内の高校の先生方と一緒に、高校生向けに沼津未来塾というイベントを年に一回開催しております。様々な分野で活躍する若手の沼津にゆかりのある講師と、少人数でも本当に講師の仕事に興味のある高校生が密に議論ができる場になればと思い始めたものです。このイベントの講師をお願いする際に、これまで何名もの沼津市ゆかりの著名人にお声がけさせていただきましたが、全ての講師が沼津市のためならばと快諾してくれます。私と同じように、「沼津市のために何か貢献したい」という思いを持っているのです。

故郷を離れて26年になりますが、沼津ほど心穏やかに過ごせる街は他にないと思っています。特に私は太陽が駿河湾に沈む情景がいつも目に浮かびます。私にとつての夕日のように、多くの人々の心に刻まれるものが街にたくさん溢れる沼津市であり続けてほしいと心から願っております。

### MESSAGE

沼津市出身、(株)Xiborg代表、義足エンジニア  
**遠藤 謙** さん



1978年生まれ。  
慶應義塾大学修士課程修了後、渡米。マサチューセッツ工科大学メディアラボバイオメカニクスグループにて博士取得。現在、ソニーコンピュータサイエンス研究所アソシエイト・リサーチチャー、ロボット技術を用いた身体能力に関する研究に携わる。2014年株式会社Xiborgを起業、代表取締役後任。パラリンピックメダリストのスポーツ用義足開発や、乙武洋匡氏のロボット義足での歩行チャレンジ「乙武義足プロジェクト」などを主導。

# 沼津の未来へ

## 100周年記念スペシャルメッセージ



沼津にゆかりのある、様々な分野で活躍する皆さんに、沼津市の魅力や応援メッセージを綴っていただきました。

### MESSAGE

沼津市出身、車いすラグビー  
東京パラリンピックメダリスト  
**若山 英史 さん**

1985年生まれ。  
沼津市立片浜小・中学校を卒業後、沼津市立沼津高等学校へ入学。  
高校卒業後、2004年にプールでの事故により変位し、車いすラグビーを始める。リオ・東京パラリンピックで銅メダルを獲得。現在、2024年開催予定のバリアリンピックでの金メダル獲得を目指し、沼津市を拠点に活動中。



(C)JWRF

この度は、市制100周年おめでとうございます。僕が沼津市に住み始めてから約30年が経ちましたが、沼津市がスタートしてからはその何倍もの時間が経っているのだと思うと、数々の出来事乗り越えてこられた先人の方々のご尽力に敬意を感じます。



(C)JWRF

沼津での思い出といえば、約30年も住んでいるとたくさんあり過ぎてあげればキリが無いのですが、一つは小学校の卒業記念に松を植えたことです。沼津を象徴する広大な千本松原の一部分を自分たちの手で作らせていただけのたと思うと、とても感慨深いです。そして、その際

に千本松原に関する俳句も作ったのですが、大学入試の面接の際に、面接官の方が沼津の方だったのでこの時のお話をさせていただいた結果、なんと合格することが出来ました。これは勝手な推測ですが、そのおかげで合格出来たのだと思っています(笑)。

その後、大人になってから沼津の素晴らしさに気づくこともありました。実は子供の頃は、魚は骨を取ったりするのが面倒だからと、沼津の干物を食べる機会も少なかったのですが、大人になってから周りの人にその栄養価の高さや美味しさを教えてもらい食べたところ、沼津の干物がとても美味しいと気づきました。今では、食事での栄養バランスの調整時やリラックスタイムの晩酌時など、定期的に買って食べたり、知人へ贈ったりしています。

また、私がパラリンピックや国際大会に出場した際には、市役所の一番目立つところに大きく名前が入った垂れ幕を掲げていただき、心から嬉しく思いました。これをきっかけに市民の皆様パラリンピックであったり、車いすラグビーといったパラスポーツを認知していただくことが出来ました。街のいろいろなところ

で「頑張っ！」と声を掛けていただき、市を挙げて応援していただけていることを実感することが出来ました。試合中の苦しい時や、結果が伴わずに落ち込んでしまった時も、皆様の声援や想いを力に変えて最後まで戦い抜くことが出来ました。

最後になりますが、今後も車いすラグビーでの活躍やパラスポーツの普及で、スポーツを活用したまちづくりを進めている沼津市の一端を担えるように活動していきたいと思えます。これからもなお一層盛り上げていくであろう、沼津市の更なる発展を楽しみにしています！



(C)JWRF

この記念すべき100周年を迎えられ、皆さんにお祝いのメッセージをお届けできることをとても嬉しく思います。

小さい頃は、狩野川沿いを散歩したり沼津駅前に買い物に行っていました。堤防はいつでも気持ち良く心が落ち着きます。まだその頃は駅前に西武百貨店があり、今は少し雰囲気違って見えました。私が最初にパティシエを目指したのも、仲見世商店街近くのケーキ屋さんが好きだというのがきっかけになったと思います。また、夏になると家族で千本浜へ泳ぎに行き、そのまま水着で母の実家がある島郷でみんなでスイカを食べるのが定番になっていました。沼津には海、山、川があり、富士山がいつも見える。自然がいっぱいの中で私は育ちました。

学生時代は、まだ今のようなお洒落なカフェはあまりなかったので、駅前のゲームセンターで遊んだりしていました。私はチアリーダー部に入っていて部活少女だったので、そのために学校に行っていたといっても過言ではないくらい

部活に熱中していました。文武両道の部則もあったので勉強ももちろん頑張っていました。毎日仲間と踊ることが楽しく、今でも踊りが好きです。仕事に活かせることもあります。沼津での思い出は青春だらけで、それも地元が大好きな理由の一つです。

時代が進むスピードは速くて、流行りや価値観も変わっていきますが、沼津に帰ると昔と変わらずに癒されたりパワーを貰えるところが、新しく変わって進化しているところがあります。沼津の地形を活かした自然豊かでそこから生まれている美味しいものも沢山あり、人も空気も優しく、私はまた帰りたくなるのです。帰ると富士山が綺麗だと改めて感じられます。観光名所として挙げられる沼津港は行くたびに新しい発見がある気がします。港で開催されるイベントに私も参加させてもらっているのですが、まだまだお店を制覇できていません。また行くのが楽しみです。

沼津市制100周年、これからも魅力いっぱいの場所であり続けてほしいです。それは人が創りつなげて活かしていくことでもあるのでは



ないかなと思っています。私も沼津の魅力発信しながら、一緒に歩み続けます。100周年本におめでとうございます。これからもよろしくをお願いします。

### MESSAGE

沼津市出身、女優、タレント  
**藤木 由貴 さん**

1989年生まれ。  
加藤学園高等学校卒業。元パティシエ。2017年「日本レースクイーン大賞」で史上初の5冠を達成し、2018年にレースクイーンを卒業。現在は女優やタレント業に動みながら、様々な大使やアスルクラロ沼津応援PR大使などを務め、市内外で活動している。

